

## 意識調査の結果概要

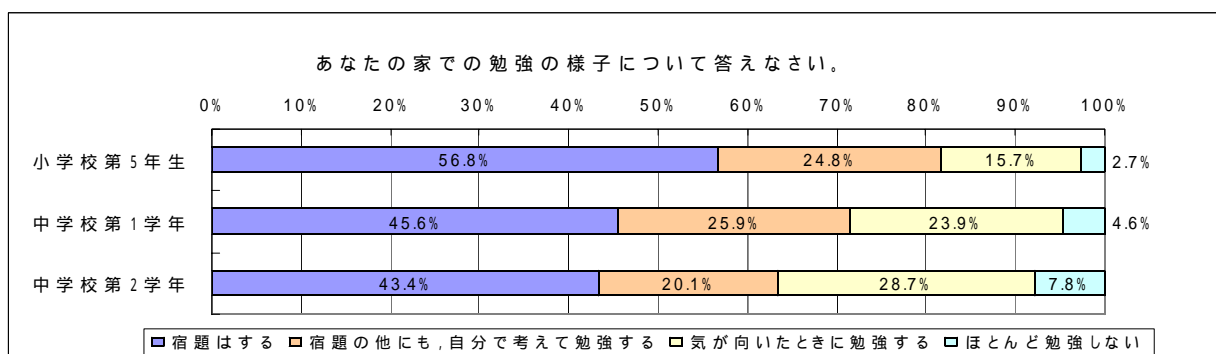
意識調査においては、「学校や家庭生活などに関する実態や意識の傾向」「教科に対する意識の傾向」の2つの視点から分析考察を行った。ここでは、特に顕著な傾向が見られる項目について抜粋し、考察している。

### 1 学校や家庭生活などに関する実態や意識の傾向

#### 宅習について

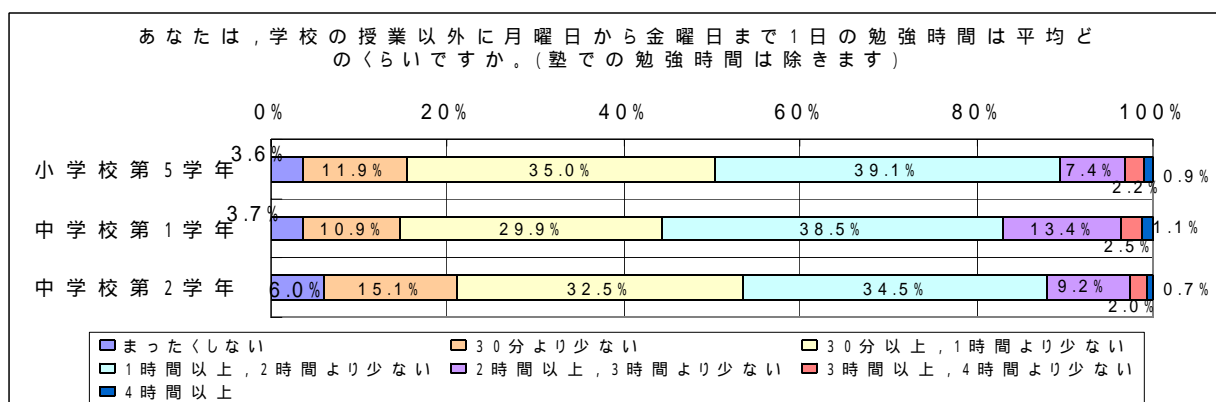
「宿題はする」「宿題の他にも、自分で考えて勉強する」と答えた児童生徒の割合は、小学校第5学年が80%、中学校第1学年が70%、中学校第2学年が60%を超えるが、1日の勉強時間が1時間より少ないと答えた児童生徒の割合は、全学年50%前後である。

#### あなたの家での勉強の様子について答えなさい。



「宿題はする」「宿題の他にも、自分で考えて勉強する」と答えた児童生徒の割合は、60%を超えており、多くの児童生徒は宅習に励もうとする気持ちや態度は持っているようである。一方、小学校第5学年で約18%、中学校第1学年で約28%、中学校第2学年で約37%の児童生徒が「気が向いたときに勉強する。ほとんど勉強しない。」と答えており、学習意欲の低下や学習習慣が身に付いていない児童生徒が見られる。学年が上がるにつれてその傾向は強い。学校や家庭が一体となった学習の習慣化に向けての更なる取組が必要である。

#### あなたは、学校の授業以外に月曜日から金曜日まで1日の勉強時間は、平均どのくらいですか。(塾での勉強時間は除きます)

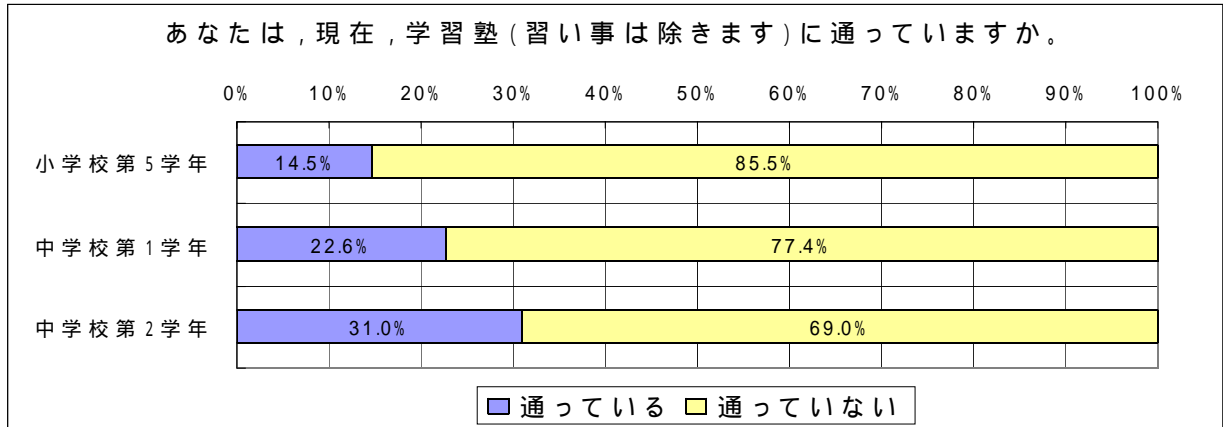


1日の勉強時間が、「まったくしない、30分未満」の児童生徒の割合は小学校第5学年で約16%、中学校第1学年で約15%、中学校第2学年で約21%であり、家庭での学習不足が見られ、中学校第2学年では、特にその割合が高くなっている。

## 学習塾について

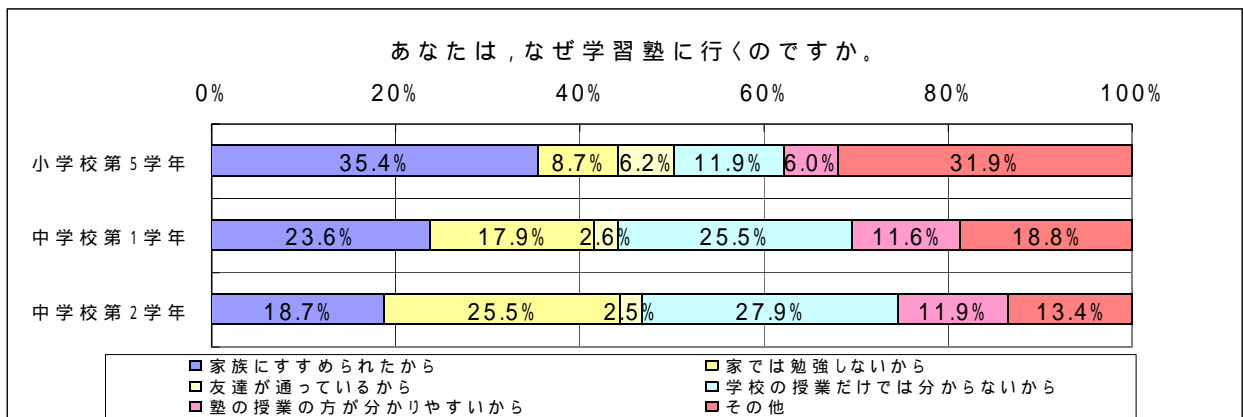
学習塾に行く理由で最も高い割合を示しているのは、小学校第5学年では、「親にすすめられた」であり、中学校第1学年、中学校第2学年では「学校の授業だけでは分からない」である。

あなたは、現在、学習塾（習い事は除きます）に通っていますか。



学習塾に通っている割合は、小学校第5学年で約15%、中学校第1学年で約23%、中学校第2学年は約31%である。学年が上がるにつれて塾に通っている割合は高くなっている。

あなたは、なぜ学習塾に行くのですか。

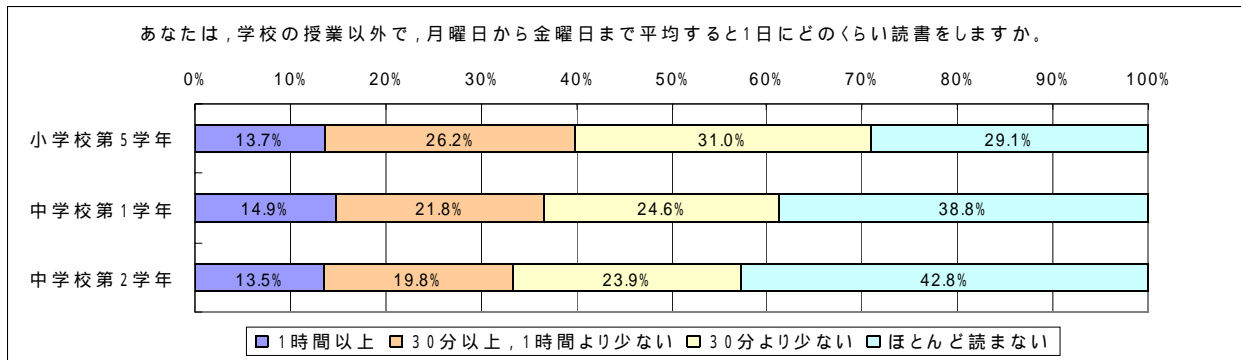


学習塾に行く理由として、「学校の授業だけでは分からないから」「塾の授業の方がわかりやすいから」と答えている児童生徒は、小学校第5学年で約18%、中学校第1学年で37%、中学校第2学年で約40%である。指導方法の改善等の工夫が急がれる。特に、「学校の授業だけでは分からないから」が、中学校になると2倍以上になっており、中学校においては指導法の工夫・改善が喫緊の課題である。

## 読書について

1日の平均読書時間は、「ほとんど読まない」割合が小学校第5学年で29.1%、中学校第1学年で約39%、中学校第2学年で約43%であり、学年が上がるにつれて「ほとんど読まない」児童生徒の割合が高くなっている。

あなたは、学校の授業以外で、月曜日から金曜日まで平均すると1日にどのくらい読書をしますか。（教科書、参考書、漫画や雑誌は除きます。）



1日の読書時間で、各学年の最も高い割合は、小学校第5学年で「30分より少ない」、中学校第1、第2学年で「ほとんど読まない」である。学年が上がるにしたがって、読書をしなくなる傾向にあるので、さまざまな機会を設けて、学校、家庭、地域社会における読書活動の充実を図っていく必要がある。

## 2 教科に対する意識の傾向

### 国語

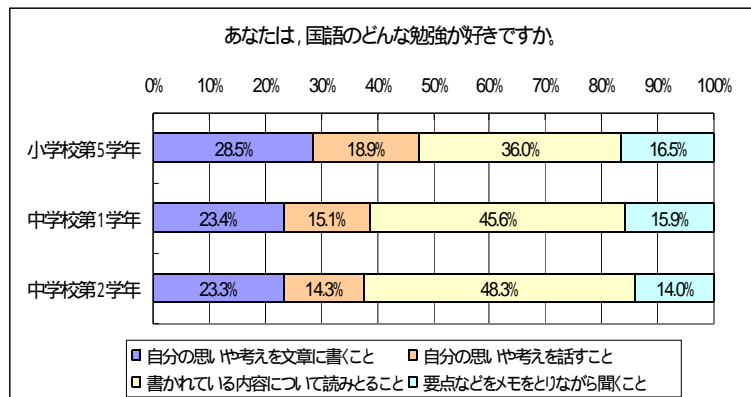
国語で好きな勉強は、「書かれている内容について読みとること」と答えた児童生徒の割合は高く、「自分の思いや考えを話すこと」と答えた児童生徒の割合は低い。

#### あなたは、国語のどんな勉強が好きですか。

すべての学年で、「書かれている内容について読みとること」が好きと答える割合が最も高く、2番目に「自分の思いや考えを文章に書くこと」と答える割合が高い。

どの学年も好きな勉強の傾向は、同じである。

自分の思いや考えを話すことについては、言語活動例を意図的に取り上げていくなど指導を工夫する必要がある。

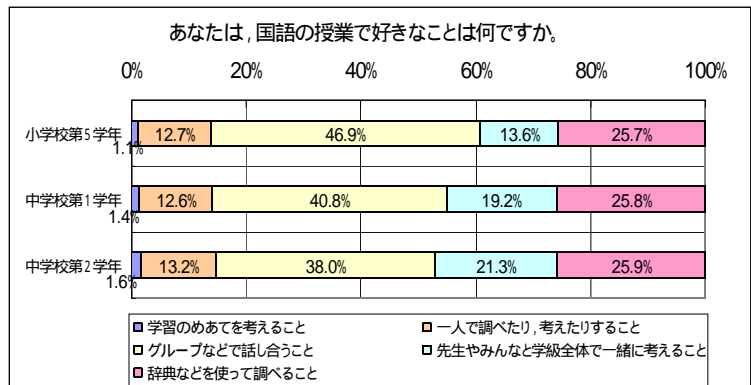


#### あなたは、国語の授業で好きなことは何ですか。

すべての学年で「グループで話し合うこと」を好きと答えた割合が高いが、学年が上がるにつれて「先生やみんなと学級全体で一緒に考えること」を好きと答える児童生徒の割合が高くなっている。

「学習のめあてを考えること」が好きと答えている割合がすべての学年で低い。

学習計画を立てる段階での指導の手だてを工夫する必要がある。

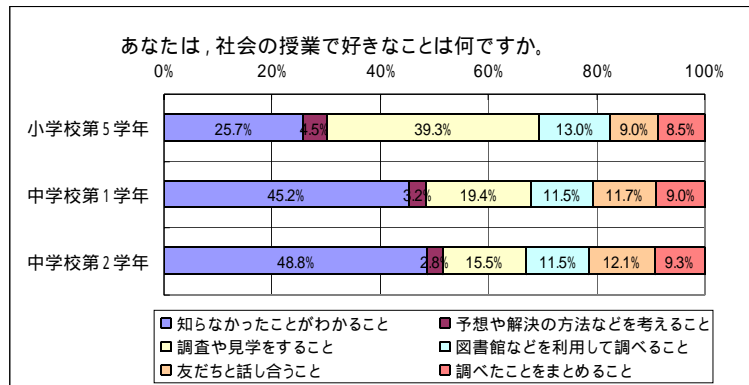


## 社会

社会科の授業で好きなことの高い割合を示しているのは「知らなかったことがわかること」である。また、約70%以上の児童生徒が新聞やニュースを進んで見ている。

あなたは、社会の授業で好きなことは何ですか。

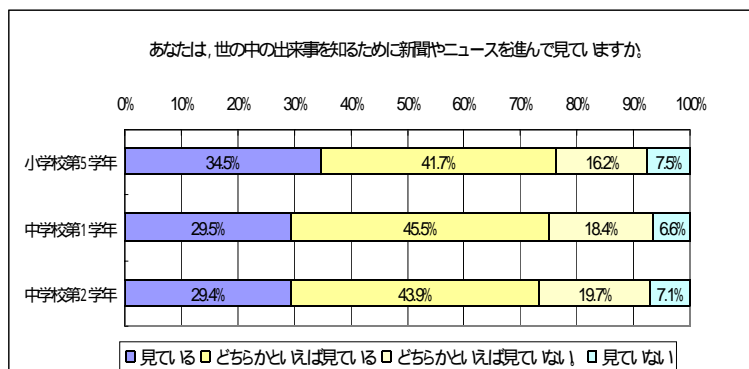
小学校第5学年では、「調査や見学をすること」が「好き」と答えた児童生徒の割合が高い。中学校の学年が上がるにつれて、「知らなかったことがわかること」を好きと答えた児童生徒の割合が高くなっており、中学校第2学年においては、約半数を占めている。各学年とも、児童生徒の学習に対する興味、関心を踏まえた指導の工夫が必要である。



あなたは、世の中の出来事を知るために新聞やニュースを進んで見えていますか。

すべての学年で、約70%を超える児童生徒が新聞やニュースを「見ている」「どちらかといえば見ている」と答えている。

ただし、「どちらかといえば見ていない、見ていない」と答えた割合が、学年が上がるにつれて高くなる傾向にある。新聞等を利用し、身近な生活と結び付けて、社会への興味・関心を高めることが必要である。



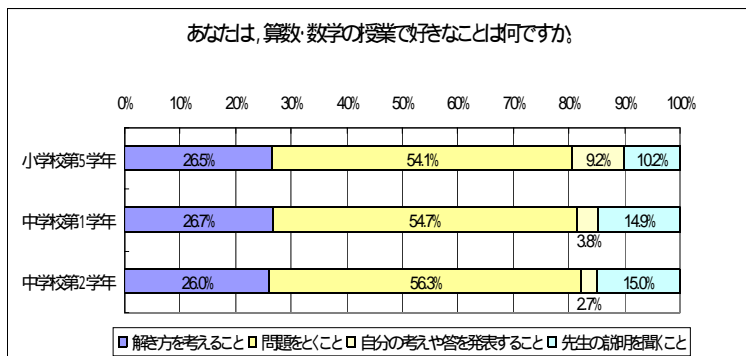
## 算数・数学

算数・数学の授業で好きなこととして最も高い割合を示しているのは「問題をとくこと」であり、全学年とも約55%である。しかし、解けなかったときもう一度やり直すかという問いに対する回答の割合を見ると、何とか解こうとする意欲や態度が、学年が上がるにつれて減退している。

あなたは、算数・数学の授業で好きなことは何ですか。

中学生では、「先生の説明を聞くこと」を「好き」と答えた割合が小学生より高い傾向を示しており、授業に対してやや受け身の姿勢が見られる。

生徒が主体的に学習に取り組むよう、指導方法を改善する必要がある。

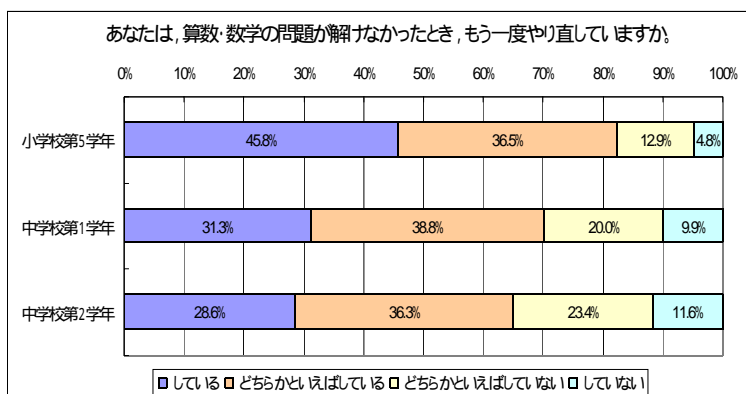


**あなたは、算数・数学の問題が解けなかったとき、もう一度やり直していますか。**

算数の問題が解けなかったとき、「もう一度やり直しますか」という問いに対して「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校第5学年で約 82 %、中学校第1学年で約 70 %、中学校第2学年で約 65 %である。学年が上がるにつれて、もう一度やり直す割合は低くなっている。

中学校第2学年では、「もう一度やり直さない」割合は、約 12 %である。

「基礎・基本」の定着のためには、解けなかった問題をもう一度やり直すことは必要であり、各学校においては、個に応じて具体的な手だてを講じ、しっかりと見届けをする必要がある。



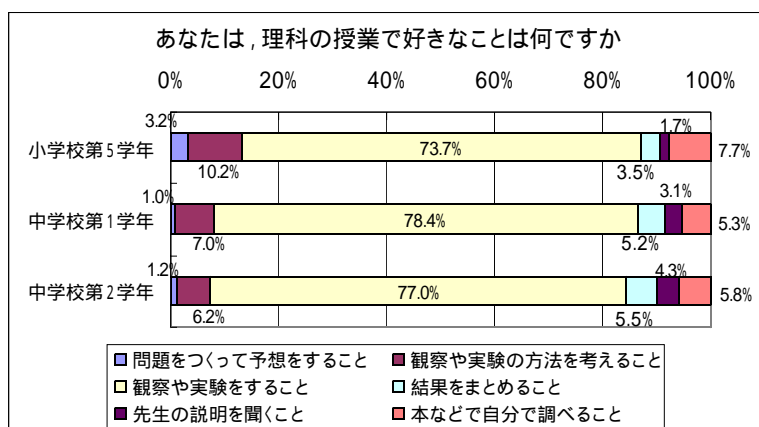
**理科**

理科で好きなこととして最も高い割合を示しているのは、「観察や実験をすること」であり、全学年とも70%を超えている。動植物や自然、環境問題などへの興味は小学生の方が高い。

**あなたは、理科の授業で好きなことは何ですか？**

「理科の授業で好きなことは何ですか」という問いに対して、すべて学年で、70%を超える児童生徒が「観察や実験をすること」が「好きである」と答えている。一方、「問題をつくって予想すること」、「先生の説明を聞くこと」はどの学年でも「好き」と答える割合が低い。

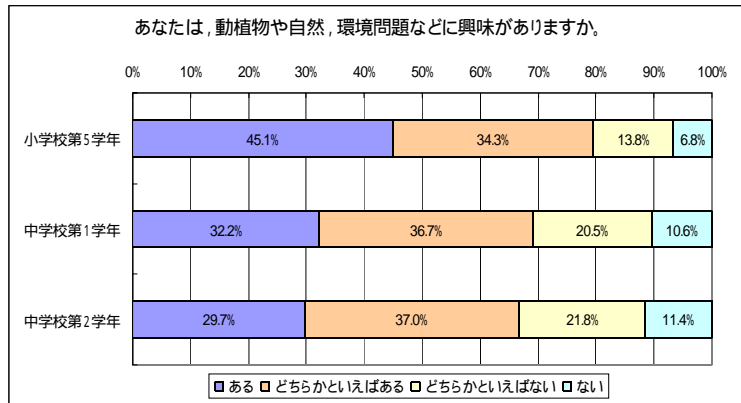
観察・実験の目的等を明確にして取りませる工夫を行うとともに、結果の考察を十分行うことにより、「基礎・基本」の定着を図る必要がある。



**あなたは、動植物や自然、環境問題などに興味がありますか。**

「動植物や自然、環境問題などに興味がありますか」という問いに対して、小学校第5学年で約80%，中学校第1，第2学年で約70%の児童生徒が「ある」「どちらかといえばある」と答えていることから、理科に対する興味・関心は総じて高いと言える。

理科の授業や日常生活の中で、動植物や自然、環境問題などに興味を持たせるとともに、授業と日常生活との関連を図りながら、理科学習に対する興味を高めていく手だてを講じる必要がある。



**英語**

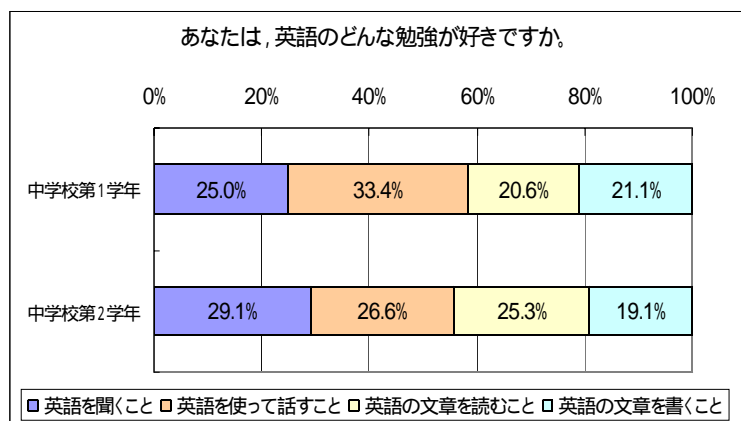
英語の授業の中で分からないことがあったとき、両学年とも「友人にたずねる」「その場で先生にたずねる」と答えた生徒の割合が高い。

**あなたは、英語のどんな勉強が好きですか。**

「英語のどんな勉強が好きですか。」という問いに対して中学校第1学年では「英語を使って話すこと」、中学校第2学年では「英語を聞くこと」と答えた生徒の割合が最も高い。

また、中学校第2学年は中学校第1学年に比べて「英語を使って話すこと」が好きであると答えている割合が低くなっている。

両学年とも「英語の文章を書くこと」が好きであるという割合が低く、苦手意識がうかがわれる。「書く」ことの指導の一層の工夫・改善が必要である。



**あなたは、英語の授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか**

英語で授業で分からないことがあったときは、両学年ともに、「友人にたずねる」「その場で先生にたずねる」の順に高い。その一方「そのまましておく」と答えた生徒は、中学校第1学年で約7%，中学校第2学年で約10%とわずかなではあるが増加している。確実な定着を図るためには、生徒の分からないことや個々の学力を教師がよく把握し、個に応じたきめ細かな指導に努める必要がある。

